

フランス語インテンシブ III
慶應義塾大学 SFC フランス語教室
2017 年春学期

SFCにおけるフランス語教育は、実際にフランス語を読み、書き、聴き取り、話すことができるようにすることを目標としています。そのためには、文法を言葉のきまりというよりもしくみとしてしっかり学び、語彙を豊かにしていくと同時に、それを運用するエクササイズが不可欠です。なるべくインタラクティブな授業を進める中で、総合的な外国語運用能力に養います。

週1回は「読む・書く」、週1回は「話す・聞く」を重視した授業をします。週2回は、2人の講師による共通の授業です。

インテンシブでは教科書は使うものの、これをあくまで学習の補助手段にとらえています。生きたフランス語は1冊の教科書の中に閉じ込められているわけではありません。われわれ教員も随時さまざまな補助教材を利用して、みなさんの知的好奇心を刺激しながら、教室での授業を運営していきます。みなさんには知識に対する貪欲さ、自分を表現し、他人を理解する意欲を十分に見せてほしいと思います。

インテンシブ・コースはIからIVまで、次のように総合的に設計されていますので、本格的に力をつけたい諸君にはぜひそのコースに沿って履修してください。国内研修と海外研修の詳細については、シラバスの各項目をみてください。

インテンシブ I → (国内研修 et/ou 海外研修) → インテンシブ II → (海外研修 et/ou 国内研修) → インテンシブ III → (海外研修 et/ou 国内研修) → インテンシブ IV → フランス語スキル

塾外実力試験では、インテンシブ III 修了後の次の学期に DELF 試験の B1 をクリアするのが目標です。これはかなり野心的な目標です。

大切なのは、授業に積極的に参加することにつきます。教室の中はひとつのシミュレーションの場ですから、間違えることを恐れずに、提示される状況の中でどんどん「行動」して「場数を踏んで」ください。外国語学習の初歩では、進歩は勉強にかけた時間に比例します。

質問がある場合は、№10 のフランス語研究室へどうぞ。ここには教員だけでなく、CA(コーディネーターアシスタント)、TA、SAがいます。気軽に足を運んでくださいまたフランス語研究室からの連絡はメールか、HPで行います。 [http:// french.sfc.keio.ac.jp/](http://french.sfc.keio.ac.jp/)はいつも見るようにしてください。では…

Allons-y !

時間割

	火	水	木	金
3FA	2 限: 宮代 ●	1 限: Durrenberger ■	2 限: 山根 ▲	2 限: Mailloux ▲
3FB	3 限: Gaillard	2 限: 西川	1 限: 澁谷	2 限: Leroy

授業は週4回。週2回はコア授業(▲)、1回は読み書き(●)、1回は話す・聞く(■)

コア授業(▲)

1. 教材

Agenda 2 (Hachette 社)。生協で購入できます。

その他自習で使える WEB 教材

(1) 「フォローアップ・フランス語」SFC フランス語教室制作：
<http://fuf.sfc.keio.ac.jp/> で、動画で楽しく文法が学べます。

– 授業の進度、構成、内容

コア授業については、フランス語セクションのホームページにアップされている授業日程表を見てください (<http://french.sfc.keio.ac.jp/home/classes/intensive/>)。

読み書きの授業(●)

インテンシブ3から4へと継続して、もともと学習教材として書かれたのではない、本物の文学作品を講読します。仏文読解力を養いつつ、作文力をも身につけていくのが目的です。じっくり取り組み、近い将来、さまざまなテーマ研究の中で出会う文献・資料を正確に読み取る力、自分の思考内容を明快に記述する力、つまり、単なる会話を超えて中身の濃い研究やディスカッションを行う際の基礎になるような堅固なフランス語力を養っていきましょう。

1. テキスト

KRISTOF, Agota, *Analphabète, récit autobiographique*, Carouge-Genève, Ed. Zoé, 2004. コピーを配布します。授業開始後、音源も配布します。

2. 学習方法

学習の主体は、いうまでもなく学生です。この授業では「読む」ことが基本ですから、仏和辞典と首っ引きになっても、まずは自分でテキストを読みとる努力をした上で教室にやって来ることが重要です。そもそも読むとはどういうことなのか、どんなふうに構文を掴めばよいのか、それは教師が徐々に教えますが、学生一人ひとりができるだけ自律的にテキスト読解に取り組み、困難を超えて、読み進める楽しみに開眼することが望ましいのです。

しばしば、テキストの指定箇所の書き取りと暗誦の準備を課します。語彙や基本的な言い回しの獲得を確かめる小テストを行う場合もあります。ともあれ、きちんとテキストを読み進めることを主眼にします。

3. 授業スケジュール(幾分の変更はあり得ます。)

週	学ぶテキストの章のタイトル
	3FA
1	(導入)
2	Débuts 1
3	Débuts 2
4	Débuts 3
5	De la parole à l'écriture 1
6	De la parole à l'écriture 2
7	Poèmes 1
8	Poèmes 2
9	Clowneries 1
10	Clowneries 2
11	Langue maternelle et langues ennemies 1
12	Langue maternelle et langues ennemies 2
13	récapitulation
14	期末試験

話す・聞くの授業(■)

話題の文脈や場の状況に応じてスピーディに会話に加わり、聞き取りやすい発音と適切な表現を駆使して筋の通った意見を述べるような、自己表現能力・実践的な口語コミュニケーション能力を養っていきましょう。

1. 教材

初回の授業で指示します。

2. 授業内容

基本的に毎回、以下の4つのアクティビティをおこないます。

説明を聴いてノートを取りながら頭で理解していくというタイプの学習ではなく、身体的に言語運用を実践しながら音声と音声の組み立て方を身につけていくこととなります。

- ① 予め配布しておいたフランス語の文章(テキスト)を履修者一人ひとりが暗誦する。各学期中に、比較的平易なテキストと比較的難しいテキストをとりまぜて、1週間に1つずつで計12のテキストを扱う。各テキストは単純なフレーズから成り、いくつかのキーワードを含んでいる。履修者は毎回、暗誦できるように用意して授業に臨むとともに、そのテキストについて論拠のあるコメントを準備して来ることとなる(20分余)。
- ② DVDに録画されているCMを材料とする描写・聞き取り、言い換え(ex.現在形を過去形に転じる)、ヴァリエーション(ex.もとのCMの改変を想像し、条件法で語る)の演習(20分余)。なお、おそらく授業時間外に2人1組でCMを作ることとなり、それも評価対象となる。
- ③ 「ドラマトロジー」(これは造語)と称し、スタニスラフスキー・システムと呼ばれる演技理論にもとづき、寸劇的なやり取りを実践する。ここでは、言語だけでなく、身体表現も大きくものを言う。リアルな状況の中での自発的・即興的な口語コミュニケーションの演習(20分余)。

成績評価の方法

教員4人×25点	合計100点
----------	--------

最終試験

最終試験は、各担当教員の最後の授業の回(7月11日火曜、19日水曜、20日木曜、21日金曜)に行ないます。

※追試は一切行ないません。

ただし、petit testなど、普段の授業での課題も評価の対象となります。25点の内訳は、各教員が授業初回時にアナウンスします。

Conférence / Grande Rencontre

今学期はレクチャーを1回、Grande Rencontre(インテンシブ・フランス語を履修している学生が一同に集まる会です)を1回予定しています。

- 5月10日(水) Grande Rencontre
- 6月15日(木) Conférence

Conférence, Grande Rencontreは、インテンシブ・コースの一環です。

Conférence, Grande Rencontreの日は、インテンシブの通常の授業は行ないません。

時刻・場所は後日、メールおよびフランス語セクションのホームページで明示します。

国内研修

アンスティテュ・フランセ東京(旧称:東京日仏学院)で春休み、夏休みに行なわれるSFCオーダーメイドの短期集中特別コースです。午前中は少人数クラスによるフランス語学習、午後は各種アトリエに選択参加。他大学の学生と机を並べ、充実した勉強をすることができます。今年の8月下旬から行なわれる予定の研修内容は次の通りです。

2017年8月22日(火)～9月1日(金) 10時30分～18時15分 計8時間＝合計48時間
8月26日(土)、27日(日)、28日(月)は授業はありません。
受講料：84,000円(年会費不要)

海外研修

以下の6カ所で、年2回実施(春季、夏季)しています。2単位と4単位の2種類の研修があります。詳細は学期中に催される海外研修説明会で説明します。

フランシュ＝コンテ大学応用言語学センターCLA(ブザンソン)、グルノーブル第3大学フランス語教育センター、アリアンス・フランセーズ・ドゥ・ルーアン、アリアンス・フランセーズ・ドゥ・マルセイユ、アリアンス・フランセーズ・ドゥ・ボルドー、クレルモン＝フェラン大学協定校(ヴィシー)

ラジオ・テレビ

NHKのフランス語講座の時間帯は次の通りです。ぜひ活用してください。

ラジオ：まいにちフランス語

放送： 月～金曜日 午前7:30～7:45

再放送： 同日 月～金曜日 午後2:30～2:45

再放送： 翌週 月～金曜日 午前11:00～11:15

テレビ：テレビでフランス語

放送： 水曜日(火曜深夜) 午前0:00～0:25

再放送： 翌週 木曜日 午前6:00～6:25

そのほかに、次のようなサイトもあります。

<http://www.nhk.or.jp/daily/french/> 日本のニュースをフランス語で聴けます。

<http://www.radiofrance.fr/> フランスのラジオ局(複数)の放送が聴けます。

<http://jt.france2.fr/> フランスの公共放送局France 2のニュースを視聴できます。

<http://www.lemonde.fr/> フランスの高級紙*Le Monde*を読むことができます。

DELF/DALF

DELFおよびDALFという「フランス文部省認定フランス語資格試験」は、1986年5月より行なわれているフランス文部省認定フランス語資格試験で、セーヴルの中央機構 **Commission Nationale** 全国委員会の管理のもと世界160余カ国で実施されています。

DELF・DALFはいわば世界標準的な資格ですから、フランスやフランス語圏の国に留学する際、言語資格面での保証となります。日本で各種奨学金試験に応募する際にも、その資格は仏検と並んで多くの場合強い味方になります。

DELFはA1, A2, B1, B2の4段階、DALFはC1, C2の2段階に分かれています。詳しくはDELF/DALF試験管理センターのサイト(<http://www.delfdalf.jp/>)を参照してください。

TCF

TCF (Test de Connaissance du Français フランス語能力テスト)はフランス文部省公認の世界共通の、フランス語圏以外の国の人々を対象としたフランス語能力診断テストです。試験結果は可否でなく、得点で示されます。獲得得点は2年間有効です。試験は内容別に3つ(読解、文法、聞き取り)にわかれ、フランス語の総合力を確実にかつ正確に診断するとしています。

SFCはTCFの実施会場の一つです。試験は現在のところ2017年7月の土曜日に実施予定ですが、詳細についてはメール等で改めて連絡します。

Niveau du Conseil de l'Europe 欧州評議会設定レベル		TCF	DELFDALF
レベル 6	非常に優れたフランス語の運用能力を持つ。読むもの、聞くものの全てを即座に理解し、かつ的確に要約することができる。複雑なテーマについても、様々な形で、ニュアンスを交えつつ流暢に意見を述べるすることができる。	600～699 点	DALF C2
レベル 5	フランス語の優れた運用能力を持つ。含みのある難解な長文テキストであっても、そのほとんどを解し、自分の社会的な立場や仕事、学問との関わり、あるいは他の複雑なテーマについても、流暢かつ論理的に述べるすることができる。	500～599 点	DALF C1
レベル 4 autonome	フランス語を全般にわたって自主的に運用できる。複雑なテキストの要点を理解すると同時に、一般的あるいは専門的な内容の会話に加わり、筋の通った意見を明確かつ詳細に述べるができる。	400～499 点	DELFB2
レベル 3 seuil	フランス語を効果的にマスターしているが、限界がある。身近な分野の明快で標準的な表現なら理解する。旅行先で会話をこなし、自分に興味のあることを話すことができる。計画やアイデアに関して短く説明することも可能。	300～399 点	DELFB1
レベル 2	フランス語の初歩をマスター。身近な分野の単文を理解。慣れた状況でならコミュニケーションが可能。自分に関する問題を単純な手段で表現できる。	200～299 点	DELFA2
レベル 1 survie	フランス語の基礎レベル。日常生活での単純且つ具体的な状況を理解する。相手がゆっくり話すなら、簡単なコミュニケーションも可能。	100～199 点	DELFA1

仏検（実用フランス語技能検定試験）

◇ 春の仏検には1・2・準2・3・4・5級の各試験があります。

実施日程

1次試験（1・2・準2・3・4・5級） 2017年6月18日（日）

2次試験（1級・2級・準2級の1次合格者対象） 2017年7月16日（日）

受付期間

願書郵送による申し込み : 2017年4月1日（土）～5月17日（水）消印有効

インターネットでの申し込み : 2017年4月1日（土）～5月24日（水）23:59まで

*SFC フランス語研究室では団体申込みを行います。受験料が5%安くなります。SFCでの申し込み期間は、追ってHPやメールで知らせます。

問い合わせ先 (<http://apefdapf.org>/参照)

財団法人フランス語教育振興会 仏検事務局

tel: 03-3230-1603 fax: 03-3239-3157

メディアセンターの MMLS (マルチリンガル・スペース：下記参照) に、過去の問題集 (音源付き) があり、フランス語研究室前にはパンフレットなどが置いてあります。また個々の相談にも応じます。チャレンジしよう！

マルチリンガル・スペース (MMLS)

メディア・センター2階は「マルチメディア・マルチリンガル・スペース」があります。その居心地の良い空間には CD-ROM、CD、ビデオ、雑誌、新聞、辞書、参考書 (仏検、DELF・DALF 参考書も) などフランス語の勉強に必要なものは何でもそろっています。

また、フランス語共同研究室隣の λ309 にもフランス語版 MMLS があります。ここには初級から中級までのフランス語の絵本、漫画、小説などもそろっています。教員や TA、そして SA もすぐ近くに居るので、何か質問があればいつでもたずねることができる贅沢な空間です。その上、フランス語の衛星放送 TV5 も見ることができます。あとはあなたのやる気次第。どんどん利用して、フランス語の達人になりましょう！

2017 年 4 月
慶應義塾大学 SFC フランス語教室